釧路市立北中学校「学校だより」

北　魂

令和５年（2023年）８月７日発行　VOL 19

幼児教育に学ぶ

釧路市立北中学校長　冨　田　直　樹

オホーツク教育局に指導主事として勤務している頃、管内の幼稚園（公立）、小・中学校、義務教育学校の授業改善等に向け、各種施策等の推進を通して、当該の学校（園）の教職員の皆さんと様々な取組を行い、たくさんの勉強をさせていただきました。その中でも、幼児教育（幼稚園教育）に関わらせてもらったことは、貴重な経験（勉強）の機会をいただいたと感謝しています。

８月のまだ残暑が厳しい時期に、ある町の公立幼稚園を訪問しました。小・中学校等の訪問と同様に、最初に園長から当該幼稚園の教育について概要の説明があり、その後、授業参観ならぬ保育参観に移りました。教室やホールに設置された滑り台などの遊具で遊んでいる子どももいれば、園庭の砂場で水遊びをしたり中庭を走り回ったりしている子どももいます。どこからも子どもたちの元気な声が聞こえてきて活気に満ちている様子が分かりました。

園長の案内で保育参観をしているときに、いくつかの違和感を抱きました。各教室や廊下の照明は裸電球でひもを引っ張って点けたり消したりしています。水道の蛇口も自分でひねって水を出したり止めたりします。園庭と園舎の間の戸は引き戸で、それも簡単には閉まらず、最後に少し力を入れることでしっかりと戸を閉められるようになっています。中庭は芝生ですがデコボコで、走り回っている子どもたちは何度も転びかけています。

参観後、園長にこれらの違和感について聞いてみました。すると「電球のひもや水道の蛇口、園庭と園舎の間の戸などは、あえて子どもにとって不便なようにつくられています。こうした不便な体験をすることで、物事をきちんとするという癖を身に付けるようにしています。また、中庭のデコボコは、子どもが転んで痛い思いをすることで、どうしたら転ばないようになるかを自分で考え、自分の体を使って学んでいくためです」という回答が返ってきました。この幼稚園では、不便を、子どもの体験、自らの行動と思考という成長につなげていることが分かりました。

幼稚園においては、その日に何をして遊ぶのか、子どもたちは自分たちで考えて決めたり、遊んでいる最中にけんかが起こっても、自分たちで解決したりするなど、そのような主体性、自律性などを発揮している場面を多く見かけます。そして、教師は子どもたちが自分たちで遊びを考えだせるように、また、何か問題が起こっても、自分たちで解決できるように、「仕掛け」をつくることを重視しています。日常の遊びを通して、子どもたちが、自立心や協同性、道徳性、言葉による伝え合いなどの資質・能力を獲得できる環境をつくることに徹しています。幼児教育を通して子どもたちは、既にこのような資質・能力を獲得しています。中学校教育に携わる者たちにとって、幼児教育から学ぶことは多いのではないでしょうか。